

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(やすらぎ・いたわり)

「和太鼓のビートが誘う 青少年と市民の国際交流まつり」事業

日本と外国の子どもたちの文化体験を通して 相互理解を深める草の根の交流イベント

日本に住む外国人の子どもたちと日本の子どもたちが、日本の伝統文化である和太鼓の体験を通して交流を図り、その成果を披露するライブイベントが開催された。異文化と触れ合い、共同の活動を体験する機会は、子どもたちの相互理解を深めることに貢献し、さらに日本文化の発信にもつながった。



プロの演奏家による和太鼓ライブ



イベントを告知するチラシ

文化の振興・教育のため 世界で活躍する和太鼓音楽集団が協力

主催したのは、「NPO 法人国際日本語コミュニケーション研究所 (WJCI)」。

WJCIは2010年より東京都渋谷区で、日本で暮らす外国人の子どもたちの学習を支援する日本語教室を運営している。「和太鼓のビートが誘う 青少年と市民の国際交流まつり」と題されたこのイベントは、子どもたちに日本語だけでなく日本の文化にもふれてもらいたいという思いから企画され、2015年から開催している。和太鼓が選ばれた理由については「太鼓なら特別な技術もいらなし、なにより楽しそうだから」と、WJCI理事長の渡邊晋太郎さんは明かす。

第1回目に引き続き、国内外で活躍中の和太鼓音楽集

団「東京打撃団」にイベントへの参加を依頼したところ、「文化の振興・教育目的であればぜひ協力したい」と、子どもたちに和太鼓を体験してもらおう教室の開催を快諾。こうして昨年12月24日、2回目となる「和太鼓のビートが誘う 青少年と市民の国際交流まつり」が文化学園大ホールで開催された。

イベントは、和太鼓体験教室(10:30~13:00)と和太鼓ライブ(14:30~16:00)の2部構成で実施された。当日は「東京打撃団」の6名に加え、川崎太鼓団「明」のメンバー9名が参加。第1部の体験教室では子どもたちにバチの持ち方から姿勢、演奏の基本を指導し、第2部ではそれぞれ演奏を披露した。入場無料のライブには外国人も含め約270人が来場し、和太鼓の迫力ある音色に聞き入った。

6カ国の子どもたちが参加した体験教室 和太鼓の練習を通して国際交流の場に

交流イベントとして一番の目的である体験教室には、日本、ベトナム、モンゴル、フランス、オーストラリア、アメリカの6カ国の子どもたち(小学生から大学生まで)23人が参加した。そのなかには栃木県足利市から参加した太鼓教室の生徒たちや、日本語学校の卒業生、また前回楽しかったから再び参加したという人もいた。子どもたちは皆、身の丈の半分くらいある和太鼓に目を輝かせ、プロの指導のもと真剣な表情で課題曲「三つ陣」の練習に励んだ。この練習の成果は第2部のオープニングで披露され、会場から喝采を浴びた。

「一つの目的を共有し、それに向かって様々な国の子どもたちが協力する体験教室は、本当によい国際交流の場になりました。また、こんなに大きな太鼓に触ることも、ましてや一流のプロに教わる機会などそうあることではないの



ライブに加え、体験教室や演奏も行い外国人も含め約270人が来場

で、子どもたちのよい思い出になったと思います」と、渡邊さんは振り返る。

またこの日は、和太鼓の演奏を初めて聴いて感動のあまり涙ぐんでいた外国人の姿もあったという。外国人にとっては日本文化との出会いとなり、日本人にとっては伝統文化を再発見する機会になったようだ。

感動のうちに終わったイベントだが、一方で課題も残ったという。「感動的で意義のあるイベントが開催できたという自負はありますが、同時に集客や予算の面で限界も見えてきました。3回目もぜひという声も上がっていますが、我々のような小さなNPOが開催するにはやはり支援が必要です。ただ、和太鼓団とはせつかく協力的な関係ができたので、この財産はぜひ活用していきたいです」と渡邊さん。

グローバル化が叫ばれるなか、日本人と外国人の相互理解を深めるためにも、日本文化のすそ野を広げ発信する活動の場は必要である。



子どもたちはプロの指導のもと、練習に励む

助成団体: 特定非営利活動法人 国際日本語コミュニケーション研究所 <http://www.wjci-nihongo.sactown.jp>



社会的に必要とされている文化や教育分野への支援を期待

申請してから助成金をいただくまでがとても迅速で、感謝の気持ちでいっぱいです。おかげさまで感動を呼ぶ交流イベントを開催することができました。これからも文化や教育など、経済ベースにはなじまなくても社会的に必要性の高い活動分野への支援を続けていただけるとありがたいです。

NPO 法人 国際日本語コミュニケーション研究所
理事長 渡邊晋太郎さん